

本書の使い方

本書の構成

- ・各項目で組織の全体像（バーチャルスライド：VS）と拡大像を示す。
- ・全体像（VS）における拡大像の該当位置は **A**～で印した。付録として公開する VS で該当位置を拡大すれば拡大像を観察することができる。

項目番号
(VS 番号)

組織名, 断面, 染色法

組織の全体像 (VS)

拡大像の該当位置 (A～)

1-1 指・脱灰縦断 [HE 染色]

全図は皮膚で覆われ、中心に骨、関節、靭帯などがある。指骨の前方に爪があり、指腹には豊富な皮下組織がある。皮膚の厚みは指骨より指腹の方がだいぶ厚い。

1) 皮膚

からだを被う外皮の1つで、表皮 epidermis と真皮 dermis の二層からなる (図 1-2B 参照)。表皮は重層扁平上皮の典型で、真皮は密性不規則性結合組織の典型である (A)。表皮と真皮の境界は互いに大きく嵌合していて、それぞれの突起部を上皮棘、真皮乳頭という (図 1-2B 参照)。皮膚の基底膜は光顕下では確認できないほど薄い。

2) 皮下組織

皮下組織 hypodermis とは真皮の下 (皮膚の下) に広がる線性結合組織で、多くの場合、脂肪細胞 adipocyte がつくる脂肪組織 adipose tissue で充たされる (B)。皮下組織は神経や血管の走行する部位でもあり、芯となる指節骨の近傍まで広がっている。皮下組織には骨と皮膚を結ぶような組織靭帯 (密性規則性結合組織) が斜走するが、これを皮膚支帯 retinacula of skin という。この支帯のおかげで強い力がかかっても皮膚と骨との間で剥離が起こらないのである。

3) 指節骨

骨の外観は緻密骨 compact bone だが (C)、内部は海綿状骨 spongy bone になっていて、中央部は骨髓 bone marrow になる。骨の最表層には骨膜 periosteum (密性規則性結合組織) がある。指節骨の間には関節があり、関節軟骨 (D)、関節包、靭帯 (密性規則性結合組織の典型、E) などが見られる。

4) 爪

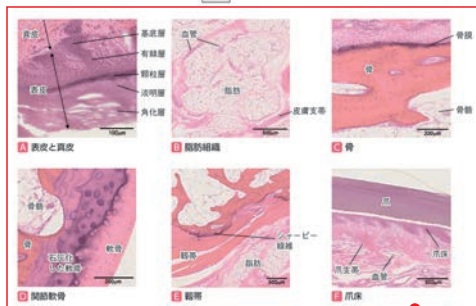
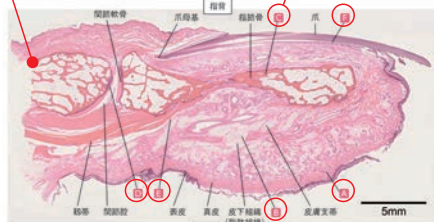
ハードケラチンによってつくられた上皮の付属器官で、爪母基、爪床などによってつくられる (F)。直下には、爪を剥離から守る爪支帯 retinacula of nail が観察できる。

5) 汗腺

汗腺の腺房、導管、開口部を観察できる。

6) 皮膚感覚器

ファーター=パチニ小体、マイスネル小体などがあるが、この VS では不明瞭である。



組織の拡大像

本書の画像とスケッチについて

- ・本書では基本的にヒトの標本を用いている。ヒト以外の標本の場合には項目タイトルに「サル結腸」など動物名を表記した。
- ・本書の各所に掲載したスケッチは東京医科歯科大学の歯学部生 (2021 年度 2 年次生) のものである。